



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

11月号—No.330  
2022.10.25  
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【錆色(さびいろ)】暗い黄赤。

鉄が酸化した錆の色から付けられた名前。「錆」の字はその色やまだらな様子と似ているものの形容としても用いられ、「錆鮎」(背中に錆のような斑模様がある産卵期の鮎)、「錆猫」(茶・黒の毛が斑になった猫)、「錆竹」(立ち枯れて表皮に錆のような斑点のある竹)などがある。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」2023・2024年度登録アーティスト集合研修

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ川崎セッション参加者募集 / 令和5・6年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集 / 令和5年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集 / 令和4・5年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」スタート

今月の情報..... 7

地域通信

今月のレポート..... 12

岩手県洋野町

三陸国際芸術祭2022 彩「芸能彩生ミーティング」「三陸未来芸能彩」

## 2023・24年度登録アーティストの初研修を開催

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)  
2023・24年度  
登録アーティスト  
集合研修



地域創造では1998(平成10)年度からオーディションで選考した登録アーティスト(2カ年)をコーディネーターと共に地域に派遣する「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」を実施しています。事業の流れは右頁図のとおりですが、決定したばかりの2023・24(令和5・6)年度登録アーティスト7組11名とコーディネーターが初めて顔合わせする集合研修が10月6日、7日に行われました。

集合研修の目的は、おんかつについての認識を共有することと、アウトリーチのプログラムをグループディスカッションで考えることです。今回のレターでは、登録アーティストたちが事業実施前にどのような準備を行っているのかがわかる研修の模様をご紹介します。

### ●演劇のコミュニケーションゲームにも挑戦

まず行われたのが、地域創造のリージョナルシアター事業のアドバイザーでもある演出家の岩崎正裕さんによるワークショップです。参加者が輪になって手拍子を順番に回すといった緊張を解かすためのコミュニケーションゲームに始まり、ペアになって相手を紹介する他己紹介を漫才風に披露したり、「白」「黄」といった色を表す静止画を自分たちの体で表現するなど、これまでクラシックの演奏家が体験したことのないワークの連続でした。

「最初は演技をさせられるのかと思って構えていたが、自然に楽しめた」「どういう意図があるのかを説明してもらいながらだったので、ワークのつくり方が学べた」「自己紹介も兼ねたワークでは演劇というフィクションを使うの

で嫌なところを気にせずに自己開示できた」「一緒にワークすることで言葉にしなくてもお互いの性格などがわかってきた」など、人を交流させる演劇ワークショップの魅力が堪能していました。

### ●先輩の実体験から学ぶ

ワークの後、おんかつの事業説明、児玉真・地域創造プロデューサーによるアウトリーチの考え方についての講義が行われました。それを踏まえ、新居由佳梨さん(2012・13(平成24・25)年度登録アーティスト/ピアノ)、塚越慎子さん(2016・17(平成28・29)年度登録アーティスト/マリンバ)を招き、先輩の実体験から学ぶゼミが行われました。

新居さん：「ホールによってリクエストがあるところ、アーティストに任せられる部分が多いところなどさまざま。この事業ではアーティストは“お客様”ではないので、担当者の意図を汲み取って、みんなでひとつのものをつくることを心がけている」「学校の先生は子どもたちに“教える”が、演奏家は気持ちなどを音楽にのせて“伝える”ものだと思っている」「今、この音楽を通して何を伝えたいか?ということを実体化できるほど強いと思う」等

塚越さん：「楽器の演奏は歌と違って歌詞(言葉)がないので、その分、MCが大事。声の高さ、話すスピード、間、言葉の選び方など、勉強をたくさんした。アクティビティは少人数対象なので、会場に入って最初の5分ぐらいで一人ひとりの特徴をとらえ、どの子にどういうタイミングで視線を合わせるかなども考えてい

写真:

左:岩崎正裕さんによる演劇ワークショップ

右:おんかつOGの新居由佳梨さん、塚越慎子さんを交えてディスカッション

●2023・2024年度「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」登録アーティスト

- 関喜弦介(ギター)
- 今田篤(ピアノ)
- 水谷桃子(ピアノ)
- 上田純子(ソプラノ)
- 西村悟(テノール)
- カメハ(パーカッションアンサンブル)
- Modétro Saxophone Ensemble(サクソフォン四重奏)

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 永田  
Tel. 03-5573-4064  
onkatsu@jfra.or.jp

## ▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

る」「人間同士が関わることなので、自分を嫌いになられたらどんな音楽も受け入れてもらえない」等

アーティストとしての揺るぎない軸をもちながら真摯に子どもたちや地域の方々に向き合ってきた先輩たちの一言一言に、おんかつの精神が溢れていました。

### ●アウトリーチのプログラムづくり

今回の集合研修の最後に行われたのが、小学校高学年(4～6年生)を対象にした45分間のアウトリーチのプログラムを考えるグループ・ディスカッションです。デュオ、カルテットのメンバーもひとりの演奏家として参加し、11名が5つのグループに分かれ、各グループの担当になったコーディネーターと意見交換しながらそれぞれに企画づくりを行いました。初めに、導入として自分のプログラムのメインに据えたい曲を子どもたちに伝えるアプローチを考えるディスカッション、その後、アウトリーチのプログラムを企画するディスカッションが行われました。

最後に全員が企画を発表し、それぞれの企画についてコーディネーターがコメント。「趣向を凝らして組み立ててあるが、こうしたらこうなるだろうという想定が多い。実際はどうなるかわからない」「要素が多く、少しレクチャー型に

なっている。もう少し子どもたちが自由に動けるといい」「最後の曲はアーティストとしての演奏にもっとフォーカスしてもいい」「聴く人に何を伝えたいのかをもう少し深掘りして、どういう思いを残したいのかをわかりやすく伝えることが大切」「自分のプログラムを客観視することも必要」などなど、プログラムをよりよくするファシリテートが行われていました。

公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業で小学校でのアウトリーチ経験のある Modétro Saxophone Ensemble (サクソフォン四重奏)の歌頭諒さんは、「グループでアウトリーチを考えるものだと思っていたが、分かれて企画してみてメンバー個人個人の考えていることがよくわかった。「カルテットは家族」と言うが、家族のことを考えずにのびのびと企画できて楽しかったし、話し合わなくてもある程度考えが共有できていることがわかったのは収穫だった」と振り返っていました。

今後、担当コーディネーターとの打ち合わせを経て、愛知県幸田町、福島県いわき市、茨城県つくば市の協力により実際の小学校でアウトリーチを行う実地研修が予定されています。来年4月の全体研修会では登録アーティストによる公開でのプレゼンテーションも行われますので、ぜひご参加ください。

### ●2023(令和5)年度おんかつ(導入プログラム)事業スケジュール

2022(令和4)年度>>>

2023(令和5)年度>>>

3月	5月	7月	8月	9月	10月	11月	～3月	4月	5月	事業実施前		9月～24年3月(予定)	事業実施後
		28日・29日	25日	22日	6日・7日			17日～19日	未頃	実施2～3カ月前	事業実施1カ月前		
2023・2024年度登録アーティスト公募	第1次選考・書類と音源(YouTube)による予備審査	第2次選考・ライブ演奏およびトークによる本審査	登録アーティスト決定・発表	2023(令和5)年度事業実施団体申請締切	登録アーティスト集合研修	事業実施団体への内定・通知	登録アーティスト実地研修	実施団体・コーディネーターが参加した全体研修会(登録アーティストが実演するプレゼンテーション実施)	派遣アーティスト・コーディネーター決定	現地下見および個別研修	企画内容の確定・契約	事業実施	事業実施報告など

## 財団からのお知らせ

### ●ステージラボ川崎セッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>

申し込み先:kensyu@jafra.or.jp

### ●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 梅村・藤原

Tel. 03-5573-4066

### ◎ミュージザ川崎シンフォニーホール

川崎市市政80周年の2004年7月1日にJR川崎駅西口に隣接して開館いたしました。大ホール(1,997席)はヴィンヤード形式で、国内最大級のパイプオルガン(パイプ総数5,248本)を有しています。クラシック音楽専用ホールとして、真夏の音楽祭「フェスタ サマーミュージザ」や地域交流を目的とした「ミュージザの日」をメイン事業と据え、川崎市がフランチャイズする東京交響楽団のほか国内外のオーケストラや室内楽、ジャズやパイプオルガン等の幅広い主催公演を年間約80～90回実施しています。また、人材育成や普及啓発、インクルーシブ事業にも取り組んでいます。ホールのほかには「音楽工房」があり、市民交流室(150席)、企画展示室、練習室など幅広い市民の方々に活用されています。ミュージザは「MUSIC+」を意味する造語で、音楽によって、人が集まり、交わり、そして響く場所として、あらゆる人に音楽との多様な関わり方を提案し、川崎のまちを豊かに鳴らしていくことを目指します。

2016年:地域創造大賞(総務大臣賞)

2021年:第33回ミュージック・ベンクラブ賞「功労賞」

指定管理者:川崎市文化財団グループ(JV)

### ●ステージラボ川崎セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組み、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和4年度の後期セッションは、ミュージザ川崎シンフォニーホール(神奈川県)にて2コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

**募集締切:2022年11月25日(金)必着**

#### ◎ステージラボ川崎セッション概要

[日程]2023年2月14日(火)～17日(金)

[会場]ミュージザ川崎シンフォニーホール(神奈川県川崎市幸区大宮町1310)

[開講コース]ホール入門コース、自主事業コース

[定員]各コース20名程度

[主催]一般財団法人地域創造

[共催]ミュージザ川崎シンフォニーホール、川崎市  
※新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更となる場合がございます。

#### ◎ホール入門コース

【コーディネーター】

岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

【対象となる職員の目安】

公立ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織は年数不問)の職員

【コース概要】

様々な地域にあるホール・劇場は予算規模や職員の人数など多種多様でしょう。違いはあっても目的は共有出来るはず。アーティストと共同して地域の将来像をどのように描くのか。そのために「今」何を為すべきか。4日間を通じて参加者が語り合い、「音楽」「ダンス」「演劇」のアウトリーチプログラムを体験します。そこから地域課題を解決に導く想定を模索していきましょう。

#### ◎自主事業コース

【コーディネーター】

田中玲子(認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー/理事)

三浦美弥子(認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター)

【対象となる職員の目安】

自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の職員

【コース概要】

年間約30回のホール主催公演、約40回のコミュニティ事業を行う認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワークのプロデューサーとディレクターと共に、自主事業の中でも、様々な対象者に向けたアウトリーチをいかにつくっていくかを考えます。演奏家(弦楽四重奏団)との打ち合わせからプログラムづくり、リハーサル、そして発表、振り返りまで、グループワークで体験することで、自分たちの地域で実際にできることを形にしていくプロセス、考え方を持ち帰っていただきます。



令和4年度前期・ステージラボ大分セッションの様子

## ●令和5・6年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集

実践的な公立美術館運営能力の向上と、公立美術館の相互交流を図ることを目的とした研修事業です。美術館や地域の課題意識に沿って研修テーマを設定し、地域創造の負担

で講師を美術館へ派遣します。

本事業を令和5・6年度に地域創造と共催で行う公立美術館を募集します。ご応募をお待ちしております。

**募集締切:2023年1月27日(金)必着**

### ●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館(博物館その他の美術作品の公開及び保管を行う施設をいう。以下「公立美術館」という。)が、②のいずれかの形態で参加することを要件とします。

- ①A 地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館
- ア 地方公共団体
  - イ 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- B 地方独立行政法人が設置し、管理運営する公立美術館
- ②参加する美術館の形態
- A 都道府県単位の複数の公立美術館
  - B 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

### ●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

### ●申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場

合は、当該都道府県立美術館

- 都道府県内外のまとまった地域における研修事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

### ●事業内容(原則)

#### 【開催地】

申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)

#### 【参加者数】

研修内容に則した参加者数を設定する。原則として20名以上の参加者により行う。

#### 【開催回数・開催時間等】

令和5・6年度の2年間について、内容の異なる半日の研修事業を、申請美術館の希望する日程において、複数回行います。

(例:有識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)

申請書類等を参考に、公立美術館の課題意識に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定します。

### ●申請美術館としての業務

各研修のテーマ設定、参加者募集にかかる事務、参加者名簿の作成、司会や受付など的人员確保を含む会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)。



研修の様子(左:令和2年度・丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/右:令和3年度・塩竈市杉村淳美術館)



### ●美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

#### ○申請方法

当財団ホームページの「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」より、申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/05.html#boshu>

#### ○研修項目例

- 文化政策のこれまでの流れと今後の方向
- 公立美術館のミッション策定のあり方
- 地域連携・地域に親しまれる企画のあり方
- 効果的なプロモーション(広報)
- マーケティング・創客
- 美術館と観光・インバウンド
- 公立美術館同士または民間施設との連携
- 公立美術館と他の行政分野との連携
- 美術館経営のPDCAサイクル
- 公立美術館の評価システムの具体例
- 公立美術館のショップ・レストランの具体例
- 公立美術館の組織や人を動かす手法
- その他、申請美術館が必要とする、公立美術館運営能力の向上に資するもの

#### ○問い合わせ

総務部 高野  
Tel. 03-5573-4184

## 財団からのお知らせ

### ●令和5年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師を派遣する「地域創造セミナー事業」の実施団体の募集を開始します。

本事業が対象としている研修会は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを内容とするもののほか、都道府県下における芸術文化団体の相互連携や、芸術文化団体と他の領域の団体のネットワーク構築など広域的な連携強化を目的とする内容等としています。講演会のテーマや内容は、申請する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基に決定し、そのテーマや内容を基に地域創造が講師を選定して派遣します。研修会は、講師による講演のほか、テーマや要望に応じて講師によるワークショップを実施することが可能です。

地域課題の文化・芸術の視点での検討や地方公共団体をはじめ多様な主体の連携による広域的な文化・芸術を活用した新たな施策等

の検討など、これからの地域と文化・芸術を考える上で有益な情報を、有識者や先駆者から得ることのできる絶好の機会となりますので、ご活用ください。

**募集締切：2022年11月25日(金) 必着**



セミナーの様子(上:令和4年度静岡県/下:令和3年度北海道)

### ●令和4・5年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」がスタート

地域創造では、今年度から公共ホール創造ネットワークモデル事業に取り組んでいます。

この事業は、これまで実施してきた「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」と「公共ホール演劇ネットワーク事業」での取り組みを踏まえて、発展的で多様な企画づくりを行える事業として新たに立ち上げた事業です。公共ホール職員の企画・制作能力の向上と広域的な連携強化を図ることを目的として、都道府県等が主体となって、クラシック音楽、現代ダンスまたは演劇の複数ジャンルのアーティストを市町村に派遣して地域交流プログラムを実施するとともに、都道府県および市町村等の公共ホールが共同・連携して複数ジャンルを組み合わせ新たな作品を制作して公演を実施するものです。

この事業では、地域創造のノウハウを取り込みつつ、参加各館のノウハウを活かした地域独自の事業を企画することが可能です。また、事業の企画・制作段階から市町村等のホールが関与す

ることで、都道府県内でのノウハウの共有が可能です。さらに複数ジャンルの組み合わせによる化学反応も期待されます。

令和4・5年度は、神奈川県(公益財団法人神奈川芸術文化財団)を中心に神奈川県内の市町村が参加してモデル事業がスタートしました。

1年目となる今年度は、KAAT神奈川芸術劇場芸術監督の長塚圭史さん監修のもと、ダンサー・振付家の柿崎麻莉子さんを中心にダンサーや俳優がアシスタントとして参加。小学4～6年生を対象としたアウトリーチプログラムづくりを行い、9月には参加4市(相模原市、小田原市、茅ヶ崎市、厚木市)のホール担当者とプログラムのブラッシュアップに向けた意見交換を行いました。

各市でのアウトリーチは12月からスタートします。どのようなアウトリーチになるか楽しみです。事業の様子につきましては、改めてレター等でお知らせする予定です。

●「地域創造セミナー」実施要綱・申込書は、当財団ホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/8010.html>

◎研修項目例(令和4年度実施)

- オンラインで展開する文化芸術の企画実践—コロナ禍におけるアートプロセスの可能性
- アートを地域経営のOSに～BEPPU PROJECTの活動より
- 地域における文化施設のこれまで、これから
- 文化芸術が地域社会に果たす役割について

◎問い合わせ

芸術環境部 矢嶋  
Tel. 03-5573-4093

●「公共ホール創造ネットワークモデル事業」に関する問い合わせ  
芸術環境部 栗林・前田  
Tel. 03-5573-4055・4076

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### 地域通信

●地域通信欄掲載情報について  
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方  
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック  
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先  
ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 梅村・矢嶋

●2023年1月号情報締切  
11月25日(金)

●2023年1月号掲載対象情報  
2023年1月～4月に開催もしくは募集されるもの

#### 北海道・東北

##### ●札幌市

北海道立近代美術館  
〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目  
Tel. 011-644-6881 久米淳之  
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/knb/>

##### 砂澤ビッキ展

蠢動するようなエネルギーをほらむ、旺盛かつ膨大な砂澤ビッキの作品群は、彫刻や工芸、絵画、書などそれぞれの分野で、彼ならではの表現世界が構築され、今なお異彩を放っている。本展では、未発表作を多く含む木彫作品とともに約260点を一堂に展覧。多岐にわたる平面作品、立体彫刻の係性をフォルムの生成・変容・解体をキーワードに探りつつ、砂澤ビッキの豊穡なる迷宮世界を探訪する。  
[日程]11月22日～2023年1月22日  
[会場]北海道立近代美術館

##### ●北海道苫小牧市

苫小牧市美術博物館  
〒053-0011 苫小牧市末広町3-9-7  
Tel. 0144-35-2550 立石絵梨子  
<https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

##### 壁画《芽の出る音》設置50年記念 谷内六郎展

子どもたちの明るい未来を願って制作され、まちの風物詩のひとつとなっている画家・谷内六郎(1921～81)の壁画《芽の出る音》が苫小牧市科学センターに寄贈されてから50年を迎える。本展では、谷内の存在が広く知られるきっかけになった『週刊新潮』の表紙原画や《芽の出る音》の原画など約60点の作品により、私たちの心を今なお引きつけてやまない作品世界を紹介する。  
[日程]9月17日～11月6日  
[会場]苫小牧市美術博物館

##### ●青森県弘前市

弘前れんが倉庫美術館  
〒036-8188 弘前市吉野町2-1  
Tel. 0172-32-8950 佐々木蓉子  
<https://www.hirosaki-moca.jp/>

##### 「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか?」奈良美智展 弘前 2002-2006 ドキュメント展

弘前れんが倉庫美術館の前身である吉野町煉瓦倉庫で2002～06年にわたって3回開催された弘前市出身の現代美術家・奈良美智の展覧会の軌跡を振り返るドキュメント展。当時の展覧会準備の様子や展示風景を撮影した写真、展覧会へのボランティア参加をきっかけにアーティストの道を進んだ作家の作品も展示する。そのほか、過去3度の展覧会を市民と共にリサーチするプロジェクトなども行い、次世代に伝播した創造性についても紹介する。  
[日程]9月17日～2023年3月21日  
[会場]弘前れんが倉庫美術館

##### ●岩手県盛岡市

岩手県立美術館  
〒020-0866 盛岡市本宮字松幅12-3  
Tel. 019-658-1711 盛本直美  
<https://www.ima.or.jp/>

##### IMAをうつす7人

##### — 岩手の現代美術家たち —

岩手県立美術館の学芸員が選んだ、岩手ゆかりの7名の現代美術家を紹介。開館から20年、東日本大震災からの10年間で大きく変化した世界を、作家たちがどのようにとらえてきたか、作品によって辿るとともに、岩手で「いま」活動する彼らの最新作を展示する。関連イベントとして作家と学芸員による対談式のアーティストトーク、出品作家によるドローイング体験などのワークショップも開催。  
[日程]11月26日～2023年2月12日  
[会場]岩手県立美術館

##### ●仙台市

仙台市市民文化事業団  
〒984-0015 仙台市若林区卸町2-12-13 (せんだい演劇工房10-BOX内)  
Tel. 022-782-7510 武田康太  
<https://www.gekito.jp/>

##### 仙台・劇のまちトリアルシアター2022「にっかわ文化祭」

幅広い世代に向け、さまざまなアプローチによって舞台芸術を届けることを目指し、2019年度から始まった「仙台・劇のまちトリアルシアター」。今年度は現在閉校中の小学校を会場に、地域の人々と協力しながら文化祭を模したフェスティバルを開催する。ノンバーバルシアター「ギア-GEAR-」による公演をはじめ、地域の特産物を扱うブースや、県内外の演劇や落語などの公募プログラム、子ども向け朗読などを実施する。  
[日程]11月12日、13日  
[会場]新川分校跡施設



仙台・劇のまちトリアルシアター2020 高校生と創る演劇 PLAY KENJI「人や銀河や修羅や海胆は」(2020年8月)

##### ●福島県福島市

福島市振興公社  
〒960-8117 福島市入江町1-1  
Tel. 024-531-6221 半澤康子  
<http://www.f-shinkoukousha.or.jp/ongakudou/>

##### 心ふれあい音楽鑑賞教室2022 “芸術の秋”オータムコンサート

毎年恒例の心ふれあい音楽鑑賞教室。対象者は小学1年生から6年生とその保護者としており、今年は芸術の秋をテーマに、クラシック音楽を中心に名曲の数々をお届けする。演奏は90年

の歴史を誇る老舗オーケストラ東京室内管弦楽団が務める。指揮者体験やパイプオルガン体験(抽選)など、参加して楽しめる公演となっている。

[日程] 11月19日

[会場] ふくしま夢の音楽堂

### ●福島県いわき市

いわき市立美術館

〒970-8026 いわき市平字堂

根町4-4

Tel. 0246-25-1111 植田玲子

<http://www.city.iwaki.lg.jp/artmuseum.html>

### ニューアートシーン・イン・いわき 竹内公太展 浜の向こう

今日的な独自の表現を展開する市ゆかりの作家を取り上げているシリーズ企画展。今回は現代美術作家・竹内公太の個展を開催する。竹内は東日本大震災後

にいわきに移住。常磐湯本の映画館の解体を取材した映像インスタレーション《三函座の解体》など、いわき市内をフィールドにした作品を発表している。本展では新作を含めた8作品を、美術館のほか近隣の文化施設であるいわき芸術文化交流館アリオスでも展示する。

[日程] 11月3日～12月18日

[会場] いわき市立美術館ほか

### ●福島県郡山市

郡山市立美術館

〒963-0666 郡山市安原町字大谷地130-2

Tel. 024-956-2200 中山恵理

<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>

### 記録する眼 豊穣の時代

明治の画家 亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々

郡山市立美術館開館30周年記念展の第1弾。版画工房・玄々堂で活動した亀井至一と弟の竹二郎について、師である写真家・画家の横山松三郎や文化財保護の先駆者であった蜷川式胤ら周辺の人々との関係性とともにも紹介する。日光をはじめとする旅先でのスケッチや木版画など、同美術館に寄贈された貴重な資料約200点も展示する。関連事業として落語や音楽パフォーマンスを上映する「幕末明治の見世物寄席」(11月23日)を開催。

[日程] 11月3日～2023年1月9日

[会場] 郡山市立美術館



亀井至一《山茶花の局(美人弾琴図)》  
(株)歌舞伎座蔵

### ●「YPAM — 横浜国際舞台芸術ミーティング2022」開催のお知らせ

YPAM(横浜国際舞台芸術ミーティング)は、演劇やダンス、パフォーマンスなどの実演型芸術に取り組み、その創造、普及、国際交流に従事する人々が集まるプラットフォームです。長かった日本への入国制限もこの10月から本格的に解除され、海外からの参加希望の声も聞こえてきています。

主催公演プログラム「YPAMディレクション」では、4カ国/地域のアーティストによる野心作をご紹介します。ブラレヤン・ダンスカンパニー「LUNA」(台湾)は、ディレクション演目としては初めての海外の公的機関との共催となります。ヤン・ジェン「ジャズミンタウン」(中国)は、北京拠点の若手振付家と横浜中華街の住民とのコラボレーション。2019年にワークインプログレスとして発表したファイブアーツセンター『仮構の歴史』(マレーシア)、今年ワークインプログレスを発表し来年完成作品を発表する予定のオル太「ニッポン・イデオロギー(仮)」(日本)は、TPAM/YPAMによる委嘱作品です。

さらに、横浜・神奈川と海外の芸術文化団体と、YPAMとの特別協力による「YPAM連携プログラム」など注目のプログラムが並びます。

交流プログラム「YPAMエクステンション」は、横浜中華街の廣東會館倶楽部のほか、BankART KAIKO、旧第一横浜銀行支店、およびオンライン

プラットフォーム「Swapcard」上にて実施します。また、最重要の裏プログラムとして認知され、数々の出会いとプロジェクトに結びついたレイトナイト・ミーティングポイントが復活! YPAMでも深夜まで議論と交流が続きます。

会期中に横浜エリアで実施される公演やプロジェクトを無審査で公募し紹介する「YPAMフリンジ」は、今回も多様なラインナップとなりました(フリンジの公演登録は11月15日まで受付中)。さらに、舞台芸術に関心のある方なら誰でも気軽に立ち寄れるスペース「YPAMフリンジセンター」が今年10月から本格稼働。YPAM2022期間中は毎日営業します。

プログラム詳細や参加登録についてはウェブサイト(<https://ypam.jp>)をご覧ください。

### ●YPAM—横浜国際舞台芸術ミーティング2022

[会期] 2022年12月1日～18日

[主会場] KAAT 神奈川芸術劇場、BankART KAIKO、横浜赤レンガ倉庫1号館、廣東會館倶楽部、Amazon Club

[主催] YPAM実行委員会(公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター)

[共催] 横浜市文化観光局、公益社団法人全国公立文化施設協会

[助成] 公益財団法人セゾン文化財団

[協力] BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター

[後援] 外務省、神奈川県、国際交流基金



左: ブラレヤン・ダンスカンパニー「LUNA」  
Photo by Lafun Photography  
右: ヤン・ジェン「ジャズミンタウン」  
Image: Zhang Yongji

### 関東

### ●栃木県佐野市

佐野市立吉澤記念美術館

〒327-0501 佐野市葛生東1-14-30

Tel. 0283-86-2008 末武さとみ

<https://www.city.sano.lg.jp/sp/yoshizawakinembijutsukan/>

開館20周年記念 コレクションは文化のタイムカプセル

当館の活動の核を成す吉澤コ

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

レクシオンと、当地の作品・資料群を読み解くことで、佐野の文化力の高さを示すとともに江戸～近代の日本美術の足跡をたどる。前期展示ではコレクションの出発点となった吉澤松堂と南画家・高久靄厓との交流に着目し、当地の画家たちの活動実績を紹介。当館で最も有名な伊藤若冲《葉蟲譜》も展示する。後期展示では吉澤象水らによる明治から昭和初期の作品収集活動に注目し、当地にて美術史の一角が編まれたことを示す。

[日程]前期:9月17日～11月13日  
後期:11月19日～12月18日  
[会場]佐野市立吉澤記念美術館

### ●埼玉県草加市

草加市文化協会  
〒340-0013 草加市松江1-1-5  
Tel. 048-931-9325 高橋勇寛  
<https://www.soka-bunka.jp/>

#### 国際ハーブフェスティバル2022

1989年より続く国内最大級のハーブの祭典。34回目の開催となる今年は特別ゲストに青島広志とcobaを迎え、「鍵盤とハーブ」をテーマにアコーディオンやマリンバ、ピアノのほか、クラヴィシンバルムといった珍しい鍵盤楽器とハーブとの共演を楽しむことができる。また、普段なかなか見ることのできない5台のハーブによるアンサンブルや、小型のレバーハーブの体験教室のほか、関連企画の国際ハーブコンクールは世界でも有数なハーブコンクールとなっている。

[日程]11月19日、20日  
[会場]草加市文化会館



草加市レバーハーブ・アンサンブル

### ●東京都文京区

文京シビックホール  
〒112-0003 文京区春日1-16-21  
Tel. 03-5803-1103 中根文  
<https://www.b-academy.jp/>

#### 区民とつくる演劇「わたくしゴト」

ホールリニューアル記念公演として、区民参加演劇公演を開催する。公募のオーディションで選ばれた出演者7人が、約5カ月間のワークショップに参加し、劇作家・演出家の山本タカと共に、出演者自身のエピソードを基に作品を創作。完成した複数の作品を連続上演する。参加者の“わたくしゴト”を作品化することで、日常の中で生まれる物語の魅力を感じてもらおうことを目指す。

[日程]12月3日  
[会場]文京シビックホール

### ●東京都町田市

町田市立国際版画美術館  
〒194-0013 町田市原町田4-28-1  
Tel. 042-726-2771 和南城・高野  
<http://hanga-museum.jp/>

#### 版画×写真 1839-1900

何世紀にもわたってイメージを写し伝えるという役割を担ってきた版画は、写真と対立するものとして語られてきた。しかし技術的に不十分だった初期の写真には、版画によって支えられる部分も多く、両者は補い合う関係でもあった。本展は世界初の写真術であるダゲレオタイプが公表された1839年を起点に、版画と写真が支え合い競い合った関係を、西洋の版画、写真、カメラや撮影機材などの資料180点を通じて探る。

[日程]10月8日～12月11日  
[会場]町田市立国際版画美術館

### ●横浜市

横浜みなとみらいホール  
〒220-0012 横浜市西区みな

とみらい2-3-6  
Tel. 045-682-2020 末廣思帆  
<https://yokohama-minatomiraihall.jp>  
ミュージック・イン・ザ・ダーク

横浜みなとみらいホールのリニューアル記念事業として行われる、視覚に障がいのある演奏家を含むアンサンブルが暗闇の中で演奏し、視覚以外の感覚で音楽を享受できるコンサート。視覚に障がいのある観客も広く迎え入れ、音楽について、また障がいについて共に考えるインクルーシブ・コンサートとなっている。開演前には、視覚に障がいのある観客がコンサートをより楽しむための鑑賞ガイドを実施する。

[日程]11月1日  
[会場]横浜みなとみらいホール

### 北陸・中部

#### ●新潟市

新潟市美術館  
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9  
Tel. 025-223-1622 荒井直美  
<http://www.ncam.jp/>

#### 新潟映像祭

新潟を拠点とする若手作家から、国内外で活躍する気鋭の映像作家まで、新潟を舞台とした映像作品を当館所蔵作品を交えて特集上映する。テクニカルディレクションには県内在住アーティストの岸本智也を起用。新潟に生きる者と訪れた者の眼差しが交錯し、多彩な映像表現が展開する。また併せて、来年開催される第1回新潟国際アニメーション映画祭の協力により、短編アニメーションも上映。

[日程]11月1日～23日  
[会場]新潟市美術館

#### ●新潟県上越市

上越文化会館  
〒943-0804 上越市新光町1-9-10

Tel. 025-525-4103 内山光太  
<http://www.joetsu-bunkakaikan.com/>

#### 小川未明市民音楽劇 『月の明るい夜に』

上越市出身の偉人、童話作家・小川未明の生誕140周年記念事業として、4月の生誕祭を手始めに、来年3月まで27のイベントが予定されており、11月に上演される市民音楽劇は目玉イベント。公募による7～74歳の市民ら約40人が出演。物語は、未明が病気がちな娘に詩を読み聞かせていたエピソードを軸に展開。新潟市出身の高橋知伽江が、月にまつわる未明の四つの童話を基に書き上げた。

[日程]11月27日  
[会場]上越文化会館

### ●富山県富山市

富山市民文化事業団  
〒930-0858 富山市牛島町9-28  
Tel. 076-445-5610 藤田充博  
<http://www.aubade.or.jp>

#### 劇場が結ぶ、本と音楽の世界 vol.3「マリコとオペラ」

音楽を愛する作家と演奏家によるクロストークとコンサートのシリーズ企画の第3弾。今回は、オペラ好きで知られる作家の林真理子を迎え、林のセレクトによるオペラ・アリアの演奏や、歌手やピアニストも交えてクロストークもあり、音楽ファンはもちろん、読書愛好家も楽しめる内容となっている。ナビゲーターは、オーバード・ホールでの音楽入門講座でお馴染みの浦久俊彦。

[日程]12月3日

[会場]オーバード・ホール

### ●富山県黒部市

黒部市美術館  
〒938-0041 黒部市堀切1035  
Tel. 0765-52-5011 尺戸智佳子  
<https://www.city.kurobe.toyama.jp/category/page.aspx?servno=79>

#### 小林耕平 テレポーテーション

ミニマルな映像作品を起点として、空間に配置するオブジェクトや日用品、自身が出演する映像などに表現を展開させてきた小林耕平。本展では、黒部市を含む新川地区の10カ所でロケを行い作品を制作。10カ所に対応したオブジェなどの作品と、そのオブジェを用いてロケ地で行われたデモンストレーションの映像で構成された展示により、造形作品の制作過程をたどる「造形指南」の物語と、地域の「観光案内」とがパラレルに提示される。

[日程]9月23日～12月18日

[会場]黒部市美術館



《テレポーテーション》(2022年)  
構成・オブジェクト・テキスト:小林耕平  
デモンストレーター:小林耕平、山形育弘  
撮影:渡邊寿岳

### ●石川県金沢市

金沢21世紀美術館

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800 黒沢・原田

<https://www.kanazawa21.jp>

**時を超えるイヴ・クラインの想像力—不確かさと非物質的なもの**

吸い込まれるような鮮やかで深い青—インターナショナル・クライン・ブルーを生み出したことで有名なイヴ・クラインは、最も非物質的で精神的であると考えた“青”に代表される色や火、水、空気などを用いることで、芸術を物質として見せるのではなく、“感性”を通してふれられるようにした。現代作家に共通する非物質性への創造的探究を主軸にクライン作品のほか影響関係にあった作家など60点を超える作品群を紹介し、時代

を超えて共通する芸術家たちの革新的な挑戦とその軌跡を展観する。

[日程]10月1日～2023年3月5日

[会場]金沢21世紀美術館

### ●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団

〒440-0887 豊橋市西小田原

町123

Tel. 0532-39-8810 伴朱音

<https://www.toyohashi-at.jp/>

**高校生と創る演劇『せんをかく』**

2014年からスタートした、プロの演出家・テクニカルスタッフ、劇場、そしてさまざまな学校・学年の高校生たちと一緒に演劇公演を創作する「高校生と創る演劇」。9年目となる今回は、脚本に非・売れ線系ビーナス主宰の劇作家・田坂哲郎、演出に川口智子を迎え、公募で集まった高校生出演者11人とスタッフ8名と共に新作戯曲を上演する。

[日程]11月5日、6日

[会場]穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

### 近畿

#### ●三重県津市

三重県文化会館

〒514-0061 津市一身田上津

部田1234

Tel. 059-233-1100 小林由梨佳

<https://m-pad.tumblr.com/>

**MPAD 2022**

今年で12年目となる晩秋恒例のプログラム。三重県内の飲食店や寺院を会場に、おいしい料理を味わった後、俳優による名作文学や古典作品のリーディング公演を楽しむことができる。9月に兵庫県で開催された豊岡演劇祭2022ではMPADの城崎温泉版が繰り広げられるなど、お食事とリーディング公演を併せて楽しむ試みは拡がりを見せている。

[日程]11月16日～25日

[会場]三重県内飲食店ほか

#### ●京都市

京都コンサートホール

〒606-0823 京都市左京区下

鴨半木町1-26

Tel. 075-711-2980 和田健太郎

<https://www.kyotoconcerthall.org>

**京都コンサートホール×京都市交響楽団プロジェクトVol.3**

**天才が見つけた天才たち—セルゲイ・ディアギレフ生誕150年記念公演**

生誕150年を迎えるロシアの天才興行主セルゲイ・ディアギレフ。数多くの作曲家と手を組み作品を発表しており、今回はその中からストラヴィンスキー、プロコフィエフ、リムスキー＝コルサコフといったロシアを代表する作曲家たちの作品を取り上げる。指揮にバスカル・ロフェ、ピアノ独奏にアレクセイ・ヴォロディンを迎えるほか、京都市交響楽団が特別客演コンサートマスターのヴァイオリニスト・石田泰尚と共に交響組曲『シェヘラザード』を聴かせる。

[日程]11月6日

[会場]京都コンサートホール

#### ●大阪府和泉市

和泉市久保惣記念美術館

〒594-1156 和泉市内田町3-

6-12

Tel. 0725-54-0001 町田つかさ

<https://www.ikm-art.jp>

**開館40周年記念交換展 特別企画 ダイアログ かたちのちから—西宮市大谷記念美術館所蔵品展—**

和泉市久保惣記念美術館は開館40周年、西宮市大谷記念美術館は開館50周年を迎え、これを記念して両館の交換展が実現。関西にゆかりのある現代作家を中心に、さまざまな素材や色、形によって表現された絵画と立体作品を展示する。鑑賞者の対話(ダイアログ)は、作

家や他者との対話につながり、鑑賞という体験が美術館の外へとつながっていくことを体感できる。

[日程]9月18日～11月13日

[会場]和泉市久保惣記念美術館

#### ●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田

通3-8-30

Tel. 078-855-5602 早水千尋

<https://ytmoca.jp/>

**横尾さんのパレット**

横尾作品の特徴である鮮やかな色彩に着目し、約40年の画家活動を振り返る展覧会。歴代の代表的なシリーズを含む作品を、テーマや様式から解放して色で分類、展示室をパレットに見立てたインスタレーションでヨコオワールドを再構築する。また、使用済みパレットや公開制作で使用した絵の具など、作品が生まれる背景も併せて紹介する。

[日程]8月6日～12月25日

[会場]横尾忠則現代美術館

#### ●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 西宮市高松町2-22

Tel. 0798-68-0206 宮地俊江

<https://www.gcenter-hyogo.jp/>

**100年の詩物語 朗読劇『アネット〜姉と弟の八十年間の手紙〜』**

劇作家・土田英生が書き下ろす「詩の朗読×ドラマ」。“神戸の詩人さん”として親しまれた竹中郁(1904～82)の朗読を折々に織り込みながら、互いを知らずに育ち離れて暮らす姉と弟、それぞれの人生と二人の情愛を描く。キャストは、共に兵庫県出身の南野陽子(姉役)、文学座の林田一高(弟役)を迎え、作家と詩、役者の出会いが生み出す繊細で心温まる詩物語をお届けする。

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[日程] 11月23日  
[会場] 兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

### ●兵庫県養父市

やぶ市民交流広場  
〒667-0021 養父市八鹿町八鹿538-1  
Tel. 079-662-0071 森本実千代  
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/bunka/>

#### YBfab野外アート展

やぶ市民交流広場の敷地内に作品を展示し、自由に観て、感じることを楽しむアート展。野外展には、滑川みぞ(神戸市在住アーティスト)、杉山至(芸術文化観光専門職大学准教授)、新井厚子(福知山市在住アーティスト)など5組のアーティストが出演。夏に関連企画としてアーティストと市民が一緒に制作した作品も展示する。

[日程] 11月5日~20日  
[会場] やぶ市民交流広場



2022年夏のワークショップの様子

### 中国・四国

#### ●岡山県倉敷市

倉敷市文化振興財団  
〒710-0046 倉敷市中央1-18-1  
Tel. 086-434-0505 清水美幸  
<https://arsk.jp/geibun/>

#### 倉敷の子どもたちに贈る素敵な音楽会 ピアノと砂のファンタジー 星の王子さま

サンテグジュペリの『星の王子さま』を、広瀬悦子(ピアノ)、伊藤花りん(サンドアート)、田中研(朗読)のキャストでお届け。『タイスの瞑想曲』や『軍隊ポロネーズ』などクラシックの名曲に乗

せ、刻々と移り行くサンドアートをスクリーンに投影。美しく儂い物語を演出する。また、倉敷市内に在住・通学の小中学生300人を無料招待。倉敷の子どもたちに芸術にふれる機会を提供する。

[日程] 11月3日  
[会場] 倉敷市芸文館

#### ●広島市

広島県立美術館  
〒730-0014 広島市中区上城町2-22  
Tel. 082-221-6246 神内有理  
<https://hpam.jp>

#### 広島県立美術館・広島市現代美術館合同企画 ケンピとゲンピの作品を並べたら、美術についての疑問が解ける(かも)展

近代の美術作品を多く所蔵する広島県立美術館と、公立館では国内初の現代美術を専門とする美術館として開館した広島市現代美術館。現代美術館の改修工事に伴う休館を契機に、それぞれのコレクションから異なる時代やジャンルを対比させながら、収蔵作品の新しい楽しみ方を提案する。会期中は両館長の座談会や、両館の学芸員による合同インスタライブ、合同対話型鑑賞など、コラボレーションによるイベントも行われる。

[日程] 10月29日~2023年1月22日  
[会場] 広島県立美術館

#### ●徳島県藍住町

藍住町総合文化ホール  
〒771-1203 板野郡藍住町奥野字矢上前32-1  
Tel. 088-637-3344 森田和美  
<https://www.town.aizumi.lg.jp/bunka-h/>

#### 藍住町総合文化ホール3周年記念公演 N響メンバーによる室内楽の午後Vol.4

藍住町総合文化ホール開館から毎年開催しているNHK交響

楽団メンバーによる室内楽コンサート。今回は開館3周年記念公演として、N響首席ファゴット奏者の水谷上総ら6名を迎え、「ファゴット4重奏曲 作品40の1 ハ長調」「ディヴェルティメン K.136」などが演奏される。

[日程] 11月3日  
[会場] 藍住町総合文化ホール

### 九州・沖縄

#### ●北九州市

北九州市芸術文化振興財団  
〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1  
Tel. 093-663-6567 豊嶋祐三子  
<http://www.kicpac.org/>

#### 2022北九州国際音楽祭

北九州国際音楽祭は、昭和63年に北九州市制25周年を記念して創設され、今年が35回目。今回のキャッチフレーズは「アンサンブルで行こう!」で、10月から約2カ月行われており、11月には優秀な若手演奏家と、国内主要オーケストラのコンサートマスターによる「マイスター・アールト×ライジングスター オーケストラ」の演奏会が予定されている。幼稚園や小学校に訪問しての鑑賞教室も行われる。

[日程] 10月9日~12月3日  
[会場] 北九州市立響ホールほか

#### ●熊本市

熊本市現代美術館  
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3F  
Tel. 096-278-7500 岩崎美千子  
<http://www.camk.or.jp/>

#### PAPER: かみと現代美術

私たちの生活に欠かせない紙、または紙製品に注目し、独自の表現へと昇華させた現代アーティスト9名を紹介する展覧会。半谷学は熊本県の特産品「い草」を活用し、大規模なインスタレーションを展開。安部典子らは阿蘇の水源からインスピレー

ションを受けた作品を発表する。また、熊本日日新聞をくしゃくしゃにまとめて出来た不思議な遊具「くしゃくしゃおばけ」も展示室に登場する。

[日程] 10月1日~12月18日  
[会場] 熊本市現代美術館



PLAY! PARK「くしゃくしゃおばけ」

#### ●大分県大分市

大分県芸術文化スポーツ振興財団  
〒870-0029 大分市高砂町2-33  
Tel. 097-533-4007 橋本・石松  
<https://emo.or.jp/>

#### 東アジア文化都市2022大分県閉幕行事 西洋音楽発祥の地プロジェクト 創作舞台『ムジカと生きる』

大分は「西洋音楽発祥の地」であり、当ホールではこれまでも古楽器やバロック音楽の演奏会などを開催してきた。今回はそのプロジェクトの集大成として、豊後の偉人である大友宗麟やペトロ・カスイ・岐部らが登場する史実をモチーフにした完全オリジナルのストーリーに、演劇・洋舞・日舞・合唱・オーケストラ等さまざまなジャンルを取り入れた大規模な舞台を制作。大分県出身のダンサー・振付家の穴井豪が総合監督を務め、音楽は尺八奏者の藤原道山、脚本は石橋直也が手がける。

[日程] 11月6日  
[会場] iichiko総合文化センター

## ▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 岩手県洋野町

### 三陸国際芸術祭2022 彩 「芸能彩生ミーティング」 「三陸未来芸能彩」



「三陸未来芸能彩」では岩泉高校(中野七頭舞)と北上翔南高校(鬼剣舞)がステージで交流

#### ●三陸国際芸術祭

芸能の宝庫である三陸沿岸を襲った東日本大震災をきっかけに、被災地を訪れたアーティストと芸能の出会いにより2014年にスタート。当初は、NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)の主催・企画制作により実施されていたが、2018年に郷土芸能を核として包括的な文化芸術による三陸地域の創造的な復興を目指す三陸国際芸術推進委員会(現在、三陸沿岸の15市町村、岩手県、民間団体が参画)を設立してリニューアル。推進委員会では、芸術祭を開催するとともに、観光と連動した事業、芸能を習う体験型事業、アーティスト・イン・レジデンスやアジアの芸能団体との交流事業、各種滞在型事業、情報発信事業、アーカイブ事業などを実施。2020年はオンライン開催、21年は三陸鉄道でのアートプロジェクトやアジアの芸能との共同制作などを実施。

#### ●三陸未来芸能彩(公演)

[会期]2022年9月11日

[会場]洋野町民文化会館セニヤホール

[主催]三陸国際芸術推進委員会、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

[出演]角浜駒踊り(洋野町・角浜駒踊り保存会)、ナニヤドヤラ(洋野町・中野ふじの会)、おおの鳴雷太鼓(洋野町)、中野七頭舞(岩泉高等学校郷土芸能同好会)、鬼剣舞(北上翔南高等学校鬼剣舞部)

※三陸国際芸術祭2022 彩のプログラム

#### \*ナニヤドヤラ

旧南部領(青森県南、秋田県北、岩手県北)で受け継がれている盆踊り。ナニヤドヤラは盆踊りの唄の歌詞から取られた名称で、各地から1,000人以上の踊り手が集う「北奥羽ナニヤドヤラ大会」が毎年夏に洋野町で開催されている。

青森県八戸市から岩手県陸前高田市までの全長600kmに及ぶ三陸沿岸を舞台にした「三陸国際芸術祭2022 彩」が9月から来年の3月まで開催されている。三陸国際芸術祭は、東日本大震災で甚大な被害を受けた沿岸地域で郷土芸能・現代ダンス・アジアの芸能が交流する企画として2014年にスタート。18年に沿岸の15市町村が参画する体制へと移行し、郷土芸能を核に創造的な復興を目指す包括的なプログラムにリニューアルした。

コロナ禍のオンライン開催などを経て初めての本格実施となった今年度は、メインイベントとして、<sup>ししおどり</sup>鹿踊や<sup>ねんぶつけんばい</sup>念仏剣舞、神楽、虎舞、インドネシアの仮面舞踊(映像)が一堂に会する「三陸篝火芸能彩」を企画。9月24日に大船渡駅前の広場で4時間にわたって7団体による演舞が披露された。篝火に照らされながらの群舞は圧巻で、最後の餅まきまで観客たちは大いに盛り上がっていた。また、コミュニティの行事・祭事で行われる本番を現地で堪能してもらいたいと、鑑賞・体験ができるモデルコースを設定するという新たな試みも行われた。

中でも興味深かったのが、郷土芸能の若い伝承者にフォーカスした「芸能彩生ミーティング(会議)」「三陸未来芸能彩(公演)」だ。9月10日、11日に岩手県沿岸部最北端に位置する<sup>ひろのちやう</sup>洋野町で開催されたプログラムの模様を紹介する。

参加したのは、中野七頭舞を継承する岩泉高等学校郷土芸能同好会(19名)と北上翔南高等学校鬼剣舞部(17名)という全国トップレベルの実力を誇る高校生たち。10日のミーティングは、自己紹介がわりのデモンストレーションと、洋野町の人たちによる歓迎の盆踊り「ナニヤドヤラ」<sup>\*</sup>で賑々しくスタート。その後、震災後に「北三陸ファクトリー」というブランドを立ち上げ、浅瀬を活用した海洋牧場でウニを養殖している地元企業(ひろの屋)へと向かった。

Uターンして取締役を務める<sup>まっか</sup>眞下美紀子さんがファクトリーの取り組みについて説明。「地

域には可能性がたくさんあるのに情報や魅力の発信が更新されていない。洋野町では2014年から多世代が参加した地域づくりをしていて、高校生とも対話している。地域の課題をスルーして芸能のことは語れないし、若者が活躍できる地場産業のことをもっと理解してもらえれば」と語りかけていた。

今回の企画をプロデュースした小岩秀太郎さん(全日本郷土芸能協会常務理事)は、「郷土芸能の専門家だけで話すと、どこまで技量を高めればプロになれるとか、どうすれば芸能を観光化できるかという発想になりがち。そこから視点を変えるプログラムが必要で、郷土芸能と職業の関係についてとらえ直す発想の種にしてもらえれば」と話していた。

夕方からは地元の芸能団体や一般参加者も合流し、グループに分かれて芸能の魅力や未来について話し合うワークショップも行われた。また、翌11日には、観客400人ほどの前で演舞を披露する「三陸未来芸能彩」が開催され、洋野町の芸能3団体が加わり計5団体が出演。途中には、「若い世代が自分の受け継いだものを人に伝える機会にしたい」という趣旨で、北上翔南高校が岩泉高校に自らの芸能をレクチャーする体験交流も行われた。

高校生たちは、「どうやって下級生に継承しているのか知りたい」「お互いの郷土芸能を踊りあいたい」「都会に出てから戻ってきて郷土芸能をやっている方の話を聞き、地元で芸能がある有り難みと嬉しさを感じた。やっぱり繋げていくことが大事」など、それぞれの思いを口にしていた。

今回のプログラムを受け入れた洋野町生涯学習課の<sup>はやしだ</sup>林下義則さんは、「コロナ禍で活動が停滞する中、それぞれの取り組みが共有できる機会になればと思って取り組んだ。会場となった洋野町民文化会館は、22年前に若者が芸能や地域の文化を発展させながら交流していくことを掲げて建設された。今後もその願いを込めて、芸能や新しい文化とともに人生を歩む人が増え、三陸が盛り上がれば」と期待感を滲ませていた。(ライター・河野桃子)